

政策の柱	I 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	5 都市の福祉力を高める	施策名	③ ユニバーサルデザインの推進
------	-----------------------------	----------------	--------------	-----	-----------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H23
					基準年	実績	実績	実績	実績	見込み	H24見通し
◆ハード面については、公共建築物のバリアフリー化を推進するため、計画的に整備を進めている。 ◆ソフト面については、障がい者シンボルマーク等を小中学校で常時使用するスタンダードダイアリーに掲載し、保健と福祉の出前講座では、受講者に説明を行っている。 また、ユニバーサルデザイン文書マニュアルを作成し、市内、市内学校及び関係団体に配布した。	◆公共建築物のバリアフリー化施設の割合については微増となっている。 ⇒今後も、着実な整備の推進により、指標の上昇は見込めるものの、目標達成は難しい。 ◆障がい者等シンボルマーク認知度については、増加傾向にある。 ⇒今後も継続して周知を図ることから、目標達成を見込んでいる。	88.0%	公共建築物のバリアフリー化施設の割合	%	58.7	59.3	60.6	60.6	65.8	66.0	88.2%
			障がい者等シンボルマーク認知度	%	—	34.8	37.6	41.9	44.9	45.2	100.0%
課題 ◆公共建築物のバリアフリー化については、進捗状況の遅れが課題となっている。 ◆障がい者等シンボルマークの認知度については、マークによる認知度に偏りがある。 ◆福祉のまちづくり事業の表彰募集に対する応募件数の伸び悩みについて課題がある。 ◆福祉の祭典参加者数について、目標達成に向けた参加者数の増加が課題となっている。 ◆民間の公共的施設整備については、申請件数の伸び悩みが課題である。			市民福祉の祭典	人	8,500	8,800	9,500	10,000	10,000	10,000	58.8%
			市民意識調査(重要度・満足度)		重要度		68.2	63.9	68.3	70.9	
					満足度		23.2	19.8	22.2	26.9	%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
こころのユニバーサルデザインの推進			◆幅広い年代をターゲットに、障がい者等シンボルマークの周知を行うことで認知度は向上しているが、マークによる認知度に偏りがある。 ⇒ 継続してマークの周知を図り、マークによる認知度の差が少なくなることで、全体の認知度が向上する見通し。 ◆福祉の祭典の周知や参加団体の配置等の工夫を図ることで参加者数は増加傾向にあるが、会場のキャパシティからこれ以上参加団体を増やすことが困難な状況である。 ⇒ 事業内容や配置等の工夫により今後も増加を見込むが、目標達成は難しい。	◆障がい者等シンボルマークによる認知度の偏りの格差については、周知方法の工夫が必要である。 ◆福祉の祭典参加者数について、目標達成に向けた参加者数の増加が課題となっている。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)					重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績	実績			
1	こころのユニバーサルデザイン推進事業	すべての市民	H20	障がい者シンボルマーク等認知度	%	34.8	37.4	40.0	42.6	45.2	A	継続	市や地区イベント等における啓発用チラシの配布、市及び民間公共的施設への啓発ポスターの掲示、児童・生徒を対象としたポスターコンクール開催など、様々な周知啓発活動の展開により、市民の福祉意識の高揚を図る。
2	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり事業	すべての市民	H13	表彰の募集に対する応募件数	件	30	30	30	30	30	A	継続	市民・事業者の優れた取組等を表彰することは、意識の高揚や活動等の普及啓発につながる有効な手段であるため、継続実施していく。
3	市民福祉の祭典	すべての市民	H19	参加者数	人	10,200	11,900	13,600	15,300	17,000	A	継続	本市の総合的な福祉イベントとして市民意識の高揚を図る良い機会であるため、より多くの市民が参加しやすいような事業内容となるよう、各団体と連携協力し、継続して実施していく。
4	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり公共的施設整備費補助金	本市区域内で公共的施設のバリアフリー整備をする事業者等	H12	補助対象工事件数	件	7	8	9	10	11	B	継続	民間の公共的施設については、新設施設のユニバーサルデザイン化が浸透していることから、補助金制度の申請対象を既存施設に限定するなど、制度内容の見直しが必要である。
						10	3	1	3				